

自分の時間を自分で決められるのがスローライフ

90年代の前半からアウトドア関連の雑誌をつくり続けてきた、「ソトコト」副編集長の遠藤昇さん。スローライフへの入り口は、環境に負荷をかけないでアウトドアライフを楽しむ方法を考えることだった。遠藤さんはこう語る。「アウトドアと環境問題は密接にリンクしていて、環境問題を考えながら暮らしていくと、必然的にスローライフになるのではないかと、というスタンスなんです。実際、自分なりに時間をつくれる生き方は何だろうかと考えたときに、忙しくても、自分の時間をち



遠藤昇さん

編集者。『月刊ソトコト』副編集長。ダンスオンザグラウンド代表



七林養宜海さん

AMA Japan 代表取締役。エコロジーライフを提案するプロデューサー

キーワードは「エコロジーライフの提案」

七林養宜海さんが自己の生活の見直しを始めたのは76年、「人に良い食」Ⅱ玄米・雑穀食が契機だった。翌年には渡米して全行程をキャンプ生活で貫き、アメリカ先住民であるネイティブアメリカンの音楽や芸術、文化から人間の生き方を学んだ。帰国してからはマクロビオティク・フードと出会い、そのコンセプトをもとに、啓蒙運動や地球環境保全世界ネットワークの構築を開始したのは、82年のこと。以降、「エコロジーライフの提案」を基本コンセプトに、世界市場で事業を展開してきている。七林さんは言う。

「19世紀の産業革命以後、合理性を必要以上に重視した結果、人間が他者（民族、国家、社会、個人）の生き方までも無視し続けた現代社会文明の手段と方法論には、計り知れない社会的問題が残されています。辺境地、少数民族、環境、人権、戦争、核、拉致、テロなどの問題もその一例で、21世紀の現代においても、けっしてそのよう

な現象は独り言で終わらせる問題ではなく、地球人類として、個人の生き方の責任が問われる時代でもあります」

私たちが今後とも持続的な暮らしをするためには、「宇宙、地球、自然」との共生が必要であり、そのためにはエコロジーを大切にしたいものづくりや精神のあり方が重要だと、七林さんは言う。その精神やものづくりがスローライフの基盤を増すものなのかもしれない。

info@amajapan.com <http://www.amajapan.com> (6月18日)



七林さんが開始および参画したプロジェクトから生まれたオーガニック、ナチュラルフーズ食品